

卒業論文内容

コウノトリ市民科学における市民の活動

指導教員：鷺谷いづみ教授

中央大学理工学部人間総合理工学科

学籍番号：15DC102023G 氏名：梶原茉結

はじめに

生息環境整備などの野生復帰の取り組みにより、現在では日本列島において野生で暮らすコウノトリは140羽を越え、その分布域は韓国にまで拡大している。本研究では、コウノトリの目撃情報を市民が主体的に収集するモニタリングプログラム「コウノトリ市民科学」の進展状況とそれを担う人々の動機や思いなどを、参与観察法と市民科学のインターネットに公表されているデータを用いて調べた。

方法

参与観察では、兵庫県豊岡市で行われた日本コウノトリの会の集会への参加とコウノトリ市民科学の事務局を務めるNPOコウノトリ湿地ネットにおける短期インターンシップ、福井県の越前市での放鳥式典の際に開催された勉強会などで聞き取りを行った。また、コウノトリ市民科学の公表データからは市民とコウノトリのふれあいの空間分布などを抽出して分析した。

結果

コウノトリ市民科学を中心に担う市民は、自発的な活動を認められることやコウノトリが繋ぐ人と人との関係に大きな意義を感じていた。また、コウノトリ市民科学のデータ数は7月以降着実に増加し、7月の時点で約1000件に達していたが、報告には空間的な偏りがある。

考察

データ報告件数の推移から見て、コウノトリ市民科学は着実に発展しており、事務局などで中心的に役割を果たしている市民は熱意とやりがいを持って取り組んでいることが分かった。今の時点での報告は豊岡とその近隣の地域に集中しているが、それはコウノトリの分布だけでなく野生復帰への関心の高さも反映していると思われる。

結論

「コウノトリ市民科学」は始まってから日が浅いが、その中心を担う市民の思いや期待の大きさから今後の発展が期待される。